

MIHO ミュージアムの建物は、「桃源郷」をイメージして設計されています。

ルーブル美術館のガラスのピラミッドを設計した I.M.PEI によるもので、「自然と建物と美術品の融合」をテーマに、桜の季節は特に美しく、コレクションは西アジア、ローマ、エジプト等世界の美術品が集められ、まさに圧巻です。紫香楽宮は奈良時代中頃、聖武天皇が造営した都、奈良東大寺にある大仏様も当初はここ、しがらきの地で造り始められました。歴史と文化の郷、信楽を訪ねます。..



記

1. 実施時期： 9月9日 雨天決行
2. 集合 : 7:50 梅田大和ハウス前 **8:00バス出発** = 草津PA(休憩) = 信楽インター

<A 班・・・2班・3班> 2号車

- 10:00～ MIHO ミュージアム 自由鑑賞(音声ガイドあり) お弁当(レセプション棟)
13:00 (レセプション棟前広場 集合) バス出発 (ガイド氏と合流)
 13:30～14:30 紫香楽宮跡見学(ガイド案内) 4グループに分かれて見学
 遺跡調査事務所(出土品展示)→ 朱雀門跡() (歩き1～2Km)
15:00バス出発 = 草津PA(休憩・お土産物) 17:00 梅田 解散

<B 班・・・1班・4班> 1号車

- 9:40～ 紫香楽宮跡駅空き地でガイド氏と合流 **バスで見学地まで移動(ガイド氏の誘導)。**
 紫香楽宮跡見学(4グループに分かれて見学)
 遺跡調査事務所(出土品展示)→ 朱雀門跡() (歩き1～2Km)
11:00バス出発 (ガイド氏同行)
 11:30～ MIHO ミュージアム お弁当の後、美術館棟へ移動。自由鑑賞(音声ガイドあり)
14:30(レセプション棟前広場 集合)
バス出発 = 草津PA(休憩・お土産物) 17:00 梅田 解散

※ MIHO ミュージアムのレセプション棟から美術館棟までは歩いて8分ほどかかります。
 無料のシャトルバスも利用できますが、集合時間に合わせて美術館をでるようにしてください。

所持品: お弁当 飲料 雨具 その他
 参加費: ￥4000(入館料含む)・・・8月19日 集金します
 音声ガイド 1台600円(個人負担)

MIHO MUSEUM(ミホミュージアム)

MIHO MUSEUM のコレクションは、創立者・小山美秀子氏（こやまみほこ、故人）の美術品コレクションを展示するために建設された美術館です。小山美秀子氏は、神慈秀明会という宗教団体の開祖でもあります。

日本から古代オリエントにわたるコレクションは約 3,000 件からなり、そのうち常時約 250～500 点を公開しています。受付とレストランがあるレセプション棟と展示室のある美術館は 500m ほど離れており、トンネルをくぐり橋を渡る遊歩道になっていて、桃源郷をイメージして造られています。



紫香樂宮とは？ …… 歴史を知ると おもしろい！

紫香樂宮は、奈良時代中頃、信楽町の北部に聖武天皇が造営した都です。

天皇は天平 12(740)年、奈良の平城京を離れ、恭仁京(京都府木津町)に都を遷しました。

恭仁京の建設が進められている間、天皇は紫香樂村に離宮を造り始め、たびたび出かけていたと記録にあります。紫香樂宮は当初、離宮として造られ始めたのです。

一方、足掛け 4 年続いてきた恭仁京の建設事業が停止されることになりました。

翌年、焼失後に再建中だった難波宮を都と宣言します。

ところが、紫香樂宮の建設は引き続き進められ、天皇は難波宮には行かず、紫香樂宮に移ります。

そして、紫香樂宮で「大仏造願の詔」を発し、甲賀寺の建設と大仏造りに着手します。

745 年正月元旦、紫香樂宮は「新京」と呼ばれ、正式な都となったのです。

しかし、紫香樂宮周辺で しきりに火災が起き、地震が相次いだことから、その年の 5 月には都は奈良(平城京)へと戻されました。

紫香樂宮は、このように数年間の間、めまぐるしく平城京→恭仁京→難波宮→紫香樂宮→平城京と都が移り替わった時期に、聖武天皇の理想を体現するために造られた都であったのです。

